


認知症介護 研究・研修
東京センター

2007
年報



2007 年度
認知症介護研究・研修
東京センター

年報

ごあいさつ

*

大海原の中にゆっくりにおこっている潮の流れが、力強く続いているように、認知症ケアにおこっている新しい流れはゆっくりではあるが確実に続いています。2007年度の東京センターの年報も、この流れにそってお届けすることができます。

*

最近、認知症の御本人が集まりをもったり、自らの体験談を執筆されたり、コメントとして発言される時代になりました。従来は、専門職や介護家族が情報の提供役をしていたのは違って、自らが主役の座につかれて発信されている姿は新鮮なインパクトを社会に与えています。

また、認知症ケアも拡がりを見せて、2006年の地域密着型のケア施策が進められ、認知症地域支援体制構築事業がモデル地域を中心に進行し、当センターが積極的に関わっています。従来行われていた認知症になっても大丈夫な町づくりキャンペーンと相まって進められていることも、2007年度事業の特徴といえましょう。

*

また、2007年10月に開催された第13回国際老年精神医学会では、私がセンター長として基調講演を行い、日本における認知症ケアの実状を中心に報告しました。

また、一般演題として5つを発表し、センター方式のケアマネジメント等の報告を行い、国際的な情報発信に貢献することができました。

時は流れ、新しい状況が絶えずおこり、今後は逆風に向かって進むことも予想されますが、センター職員一同は、心一つにして認知症ケアに力を尽くし、想いを尽くして努力してまいります。皆様の御指導を願いつつ、本年報が御参考になりますことを祈念いたします。



認知症介護研究・研修東京センター
センター長 長谷川和夫

ごあいさつ 3

I 研究活動

1. 研究活動の概要	8
2. 2007年度の研究事業成果報告	10
1) 在宅及び施設入所高齢者の認知症介護予防に重要な因子の同定と既存の予防事業の効果についての調査研究 サブテーマ：2007年コホート研究抄録	10
2) 認知症対応の視点から見た地域診断の指標づくりに関する調査研究事業	12
3) 認知症介護における現任研修の効果を測定するための指標開発 －認知症介護指導者養成研修に焦点をあてて－	14
4) 認知症ケアの質向上のための事業所内人材育成方法の調査研究	16
5) 認知症高齢者の地域生活を支援するためにスタッフが行うソーシャルワーク的支援の教育モデル構築	18
6) 身体疾患治療終了後の認知症高齢者の介護保険施設における効果的なケアとリハビリテーションのあり方に関する調査研究 －大腿骨頸部骨折受傷後に焦点をあてて－	19
7) 認知症の人へのサービス提供時のIC実施に際して必要な判断能力評価スケールの開発に関する研究事業	21
8) ユニットケアの推進に関する調査研究事業	23
9) Web 学習を用いた知識学習による認知症ケアの理解向上のための啓発事業のうち「Web 学習コンテンツ作成事業」	26
10) 転倒・転落事故防止に関する検討事業	28
11) 団塊世代のニーズに対応した将来の居住型サービス構築のための調査研究	30

Ⅱ 研修活動

1. 研修活動の概要 …………… 32
2. 認知症介護指導者養成研修 …………… 33
 - 1) 2007年度カリキュラム概要 ―新たな単元を中心に― …………… 38
 - 2) 2007年度のカリキュラムの評価 …………… 39
 - 3) 認知症介護指導者 フォローアップ研修 …………… 40
3. ユニットケア施設研修事業報告 …………… 43
4. 認知症の人のためのケアマネジメント推進事業（ケアマネジメント推進室） …………… 51

Ⅲ その他の事業

1. 2006年度東京センター研究成果報告会開催報告 …………… 54
2. 2007年度認知症介護実践者等養成事業都道府県政令市担当者研修会 …………… 57
3. 認知症地域支援体制構築に向けた推進モデルの開発研究 …………… 59

Ⅳ スタッフ紹介 …………… 62

Ⅴ 運営部活動報告

1. 事業実績報告 …………… 72
2. 2007年度 東京センター活動一覧…………… 76